

平成 2 3 年度

北栄町教育委員会の事務に関する外部評価報告書

北栄町教育行政評価委員会

は じ め に

この報告書は、北栄町教育行政点検評価委員会による平成 23 年度北栄町教育委員会の事務に関する点検及び評価である。この評価及び点検は、平成 19 年に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の第 27 条の 2 項に基づき北栄町で平成 21 年度から行われている。

北栄町は平成 17 年 10 月に二つの町が合併し、平成 19 年 7 月には北栄町教育委員会が「北栄町教育ビジョン～子どもから高齢者まで 学びを通して夢を実現する」を制定した。

上記の法律改正に基づき、まず平成 20 年度以降には北栄町教育委員会内部による点検及び評価が実施された。これは町のビジョンの二つの基本目標である、「豊かな自然と優しい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり」と「町民みんなが、人権を尊重して仲よく暮らせ、楽しく学び、夢が実現できる環境づくり」がそれぞれ 4 つと 2 つの施策の柱から構成されており、平成 23 年度については、その 6 つの施策の柱「1．乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭」、「2．地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども」、「3．仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども」、「4．子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育」、「5．人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町」、「6．学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町」を推進するための事業について、それぞれ A、B、C、D、E の 5 段階で評価された。ほとんどの事業計画は C とされ、全体としても指標通り達成できたと評価された。

平成 20 年度の内部評価以降、北栄町教育行政点検評価委員会による外部評価を平成 21 年度の 3 回に続き、平成 22 年度に 3 回、平成 23 年度にも 3 回実施した。当委員会では、平成 23 年度に評価対象事業として、従来実施してきた、隔年では全事業の半分を評価していた方法を改め、全 43 事業の評価を行った。

評価基準は、平成 21 年度と変わらず次の 5 つ「事業が継続的なものであったか」、「対象をできるだけ広くとらえていたか」、「参加者は事業に満足できたか」、「事業実施の予算的裏付けがあったか」、「当該事業がビジョン実現に貢献したか」とした。

尺度については、平成 21 年度では内部評価と同じ 3 段階（A = 目標以上に達成できた、B = 目標通り達成できた、C = ほとんど、全く達成できない）とした。しかし、平成 22 年度はさらに細かく評価するために 5 段階（A = 目標を大幅に達成できた、B = 目標をいく

らか超えて達成できた、C = 目標どおり達成できた、D = 目標を一部達成できなかった、E = ほぼ全く達成できなかった)に変更した。平成 23 年度も前年度と同様とした。

これらに基づき全 43 の個別の事業を評価した。「同日公開参観日の実施」、「中学校での心の教室相談事業の実施」、「要保護児童対策地域協議会」、「少人数学級の推進」、「ICT 教育活動支援員の配置」、「小中学生の地区学習会の開催」、及び「指定管理者まちづくりネットによる大栄分館の管理及び各種事業の実施」の 7 事業は総合評価で B とし、「家庭教育 12 カ条の推進事業」、「職場体験学習(ワクワク)」、「ドリームプロジェクト X(北条小・中)」、「社会教育講演会の実施(宝くじ文化講演)」、「『読み語るふるさとの偉人達』事業」及び「人権同和教育小地域懇談会の開催」の 6 事業は D とし、「ディスカバー北栄 2011(ボランティアで守る町内文化遺産)」及び「生涯学習推進講演会の開催」の 2 事業は E とした。他の 28 事業の総合評価は C とした。評価点検のプロセスで、委員からは様々な質問や意見、具体的な改善案も提案され、これらに対して詳細な回答等もされた。この度、全事業が 2 度目の外部評価となったが、当初事業の実施ができないものと、実施したがその効果に疑問が残る事業に、はじめて E 評価が付いた。今後は、個々の事業単位のみならず、更に上位の事業計画レベルでの評価も必要と思われる。

北栄町教育行政評価委員会	会長	野津	伸治
	委員	山田	真由美
	委員	竹信	啓子

平成23年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)
継続・単年
対象者、参加者
参加者の満足度

予算措置
ビジョンへの貢献度

(評価)

A = 目標を大幅に達成できた
B = 目標をいくらか超えて達成できた
C = 目標どおり達成できた
D = 目標を一部達成できなかった
E = ほぼ全く達成できなかった

●外部委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
1 - 家庭教育の充実				
○子育て学習講座の実施 (全保育所と幼稚園)	家庭教育の充実を図るために、町内8施設(保育所・幼稚園)で実施する。内容は、基本的生活習慣の定着、親子のコミュニケーションのと리카た等。 通年実施。各施設1～2回程度。	実施中 実績11回 延べ参加人数419名(12月28日現在) 今後の実施予定 2回 それぞれの施設の現状に合うテーマを選び、専門の講師による講演を行った。講演の内容は、絵本の読み聞かせや歩育の大切さ等。参加した保護者・保育士からは「参考になった」「励まされた」等の感想が聞かれた。	C	・とても良い取り組みだと思う。 ・継続していただきたい。 ・各園の希望、保護者の意見等から、講演内容を検討してはどうか。
○家庭教育12か条の推進事業	基本的生活習慣の定着に向けチラシ配布等の啓発に加え、今年度はカレンダーを作成し、家庭や学校での取り組みを働きかける。(カレンダーの挿絵は小学生より募集する)	・家庭教育12か条カレンダー1,500枚作成(12月に町内の保幼小中の児童・生徒がいる家庭へ配布) ・取り組みに対するチェック欄をつけることで取り組みの増進を図る。 ・「家庭教育12か条」、「6:30運動」ポスター各7,000枚(11月の集中発送で全戸配布、保幼小中の児童・生徒へ配布)	D	・前年度予算増額は、カレンダー作成・配布であるが、製作前に想定した教育効果は達成できたか？ ・予算の大幅増で、どれだけ活用されているか疑問だが、家庭教育12か条の推進になっていると思う。 ・カレンダーについては、目には付くが継続という点では疑問。別の方法がよいのでは…。そこに予算をかけるのはどうなのかと思う。(回答)効果は見えない。効果は長期でみることとなる。年間を通して目にふれる効果効果がねらい→効果を図るため、アンケート実施する。 ・各条のアンケートか？(回答)各条ではなく、目にふれる効果についてなどのもの 結果は？(回答)4月中 ・カレンダーの利活用→使用状況を見るため、回収も検討している。 ・機会を設けることによって推進している。
1 - 地域で育てる教育の充実				
○同日公開参観日の実施	保育や学習の内容、環境、子どもたちの様子を知っていただくために、町内全保育所・幼稚園・小学校・中学校を開放する日。誰でも、好きな時間に参観することが可能 1回目 6月3日(金) 2回目 10月21日(金)	参観者数 1回目 6月3日(金) 1,072人(昨年980人) 2回目 10月21日(金) 1,127人(昨年1,162人) 普段の遊び・授業・休憩・給食・掃除、行事などいろいろな場面での子どもたちの様子を保護者や町民の方々に知っていただくよい機会になった。また、アンケートに感想や意見を書いていただくことにより、取り組みについて振り返り、保育や教育の充実につなげることができた。	B	・良い取り組みだと思う。 ・これからも継続してほしい。 ・おとし参加。良い試み。継続に価値がある→プラスの効果を求める手法は何かあるのか。
○教育シンポジウムの開催	平成23年6月13日(月) 午後7時より 大栄農村環境改善センターで開催 わたしたち大人(家庭・地域・学校)が、それぞれの立場でできることは何か、専門家のお話を聞き、一緒に考え、一人ひとりが実践していけるようにすることが目的のシンポジウム。併せて、脳の活性化や記憶力にも関係するといわれる音読。アナウンサーの朗読を聞き、音の響き・言葉の美しさなどを感じ取り、家庭での子どもの音読につなげるようにするもの。	平成23年6月13日(月) 午後7時～9時10分 大栄農村環境改善センター 参加者110人 ・現職アナウンサーの「伝える」ことを意識した朗読に、参加者は、声に出して読むことを感じ「さっそく音読を始めたい」「これからも続けていきたい」という感想を持った。また、シンポジウムでは3人の専門家の話から、参加者が子どもの生きる力をはくむ主体であることに気づき、「これならできそう」と具体的に取り組みそうなことを考えることができた。 ・参加者が少なかった。多くの人に参加してもらうための働きかけが今後の課題である。	D	・初めての企画ではあるが、参加者が少ない。 ・曜日、時間、特に誰に聞いてもらいたいのか、聞いてみたいと思える内容を提供してほしい。
2 - 地域との連携を深め特色ある教育活動の推進				
○職場体験学習(ワクワク)	○職場体験を通して、働くことの楽しさや厳しさを学ぶことで今後の進路について考えようとする態度を養う。 大栄中学校 2年生 57人 6月20日(月)～24日(金) 5日間 TCC等20を超える事業所を予定 北条中学校 2年生 61人 7月5日(火)～8日(金) 4日間 TCC等20を超える事業所を予定	[大栄中学校] 6月20日(月)～24日(金)5日間 2年生 57人 23事業所 [北条中学校] 7月5日(火)～8日(金)4日間 2年生 61人 23事業所 ○成果 ・職場体験を通して、働くことの楽しさや厳しさを学ぶことができ、今後の進路について考える機会となった。 ・地域の人たちとのふれあいを通して、社会の一員としての自覚を持ち、社会の規律やマナーを学ぶことができた。 ●課題 ・受け入れ事業所の固定化 ・時間数確保による実施時期の検討	D	・受け入れ事業所を増やしていく必要がある。 ・受け入れ先(事業所)の数を増やしてはどうか？ ・子どもの意欲があまり感じられないとの声を各事業所から聞くことがある。取り組みとしては良いが、方法として生徒自身が、自分で体験したい職場を考え、自分の足でお願いしに行くとか、(他の学校で取り組んでいる) ・教員の事前指導、職場体験という活動に対する考えが甘いと思う。 ・主体教委→学校 マンネリ化 なぜ行うのか、今一度ふりかえりを。 ・マンネリ化しているのでは、教員も最終日にしか回らなくなっている。 ・子どもの意欲が感じられない。学校との関わりがない。子どもは授業を受けなくていいという感じになっている。
○ゲストティーチャーの招聘 (地域人材の活用)	大栄中学校 運動部外部指導者 1年生社会人講師 北条中学校 運動部外部指導者 大栄小学校 クラブ活動の指導 11月17日(木) 「ほうじょう子ふれあいフェスティバル」 ・フラワーアレンジメント ・わらかる作しめ縄 ・白玉だんごづくり など	[大栄中学校] ・柔道、剣道、卓球の3種目 [北条中学校] ・卓球、バレーボール、バドミントンの3種目 [大栄小学校] ・クラブ活動・黒ぼく太鼓の指導等 [北条小学校] ・11月17日(木) 「ほうじょう子ふれあいフェスティバル」におけるゲストティーチャーなど ○成果 地域の人たちと接することで、地域との結びつきが出来た。	C	・同日参観日と連動してのPTA総会と同じように、保護者の中から募集してみてもどうか。(例:倉吉東高校の「大人の一言」) ・地域の人たちを活用させてもらい、子どもたちの生き生きとした活動にしていってほしい。 ・継続してほしい。 ・運動部外部指導については、予算があるのか？お金がかかってくると少し問題が変わってくると思うが…。 ・地域の人との結びつきについては評価できる。 ・(運動部外部指導者 補足説明)北条・大栄各3人 10万円/1人 4千円/1回 1人国全額 2人県・町半額負担

平成23年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)

継続・単年
対象者、参加者
参加者の満足度

予算措置
ビジョンへの貢献度

(評価)

A = 目標を大幅に達成できた
B = 目標をいくらか超えて達成できた
C = 目標どおり達成できた
D = 目標を一部達成できなかった
E = ほぼ全く達成できなかった

●外部委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
2 - 町の自然や歴史に触れ合えるイベントの開催				
○歴史文化探訪ウォークの実施	【目的】北栄町内の歴史、文化財、文化芸術を自らの足で歩き、知ってもらう事により、郷土愛の醸成を図る。 【期 日】平成23年10月9日(日)午前9時から 【内 容】北条砂丘開拓をめぐる コース(約3k) 【募集定員】25名 3年目通算5回目	【成果】 北栄町内の歴史・文化を歩き訪ね、知ることで郷土愛の醸成を図る目的で、今回大栄地区の瀬戸集落地内を巡った。県指定保護文化財や、古墳跡等を解説を行いながら約3.5kウォーキングを行った。参加者の感想としては、「近くにしながら歴史や存在を初めて知った」などがあり、ふるさとの認識に役立った。(参加者数23名) 【課題】 今回で5回目となるが、参加者の年齢が高齢者が多く歩行距離と、コース設定に工夫が必要。	C	・事業目的が「体力づくり」ではなく「歴史探訪」だが、「ウォーキングのまち北栄町推進事業」と統合が可能ではないか。 ・高齢者が多いとの事について、小学生を対象にして授業の1つに取り入れては。北条小では、小2の時に「まちたんけん」という北条区内の事業所等を回る学習がある。同じように考えるのは難しいのか？町内の歴史や文化など、子どもに知ってもらう方がいいと思う。(回答)統一するとすれば、色分けする必要がある。現行では、目的ごとに行っている。
○ウォーキングのまち北栄町推進事業	【目的】昨年作成した、(北栄でくつウォーキングマップ)を活用し、気軽に取り組めるウォーキングで、運動人口の裾野の拡大を図る。 【期 日】平成23年4月～12月の間で6回開催 【時 間】午前9時から始め午前中に終了 【内 容】マップ11コースの中から今年度は6コースを歩く 【募集定員】定員なし 参加者には毎回参加缶バッジ有	昨年作成したウォーキングマップを活用し、ウォーキングによる運動人口の裾野の拡大を図るべく実施。12月末で6回開催し、延べ280名が参加。参加者は、町内外からの参加がある。町のウォーキング大会として定着しつつある感がある。(本事業は県のウォーキング事業の19のまちを歩く公認コースに認定されている)	C	・事業目的が「体力づくり」だが、「歴史文化探訪ウォーク事業」と統合が可能。 ・節約可能、内容調節可能 ・定着しつつある。 ・参加者もあり、いい取り組み ・上記とは目的が違うため、評価を変えた。
3 - 保・幼・小・中の連携の充実				
○教員の人事交流	小学校と中学校との間の人事交流 大栄中学校 大栄小学校 現在も継続 西田真由美先生(大栄中) 北条中学校 北条小学校 現在も継続 中本祐二先生(北条小) ねらい 教職員の意識改革 指導方法の改善 連携推進	実施中 [大栄中学校 大栄小学校] 西田真由美先生(大栄中) [北条中学校 北条小学校] 中本祐二先生(北条小) ○成果 他の教職員の意識改革、そして指導方法の改善への効果があった。また、異動した教職員自身についても意識改革が進み、指導方法の改善に繋がった。	C	・毎年交流された教員の貴重な経験がデータベース化されて蓄積・継承され、他の職員へも浸透することを期待。 ・意識改革？、成果をどのように伝えているのか？(回答)データベース化はできていない。教えることで成果としている。 ・意識と指導方法が、何からどういう風になっていったのか？
○町学校教育研究協議会	○北栄町学校教育研究協議会 目的:町立幼稚園・小学校・中学校が相提携し、幼児、児童、生徒の豊かな人間性と確かな学力を育て、本町教育の充実進展に努め、併せて関係諸団体との緊密な連携を図ることを目的とする会。 構成:町立幼稚園・小学校・中学校の教職員 ●町からの補助金 150,000円	平成23年5月9日総会開催 その後は各部ごとに部会で活動 (学習指導部会・生徒指導部会・人権教育部会・特別支援教育部会・健康教育部会・読書推進部会・学校事務部会) ・幼・小・中学校が連携し、幼児、児童・生徒の豊かな学力を育てるために各専門部(学習、生徒指導、人権教育、特別支援教育、健康教育、読書推進、学校事務)に分かれ、それぞれの活動方針にそった活動が進められた。	C	・成果をどのように伝えているのか？(回答)話し合いの中で伝える。・具体例をあげる。 ・意識と指導方法が、何からどういう風になっていったのか？ ・結果がどうか伝わってこない。
○レインボープラン (大栄小中・中央育英高校)	大栄小中・中央育英高校連携 事業 目的:同じ丘に大栄小学校・大栄中学校・鳥取中央育英高等学校があるという立地環境を活かし、小中高等学校が連携する中で、一人ひとりの児童生徒の発達を上級学校へと繋げると共に、進路意識の向上及び教職員の他校種理解を深めることを通して、学校が抱える共通の諸課題(学校不応への対応、教科指導の一貫性、人権教育・特別支援教育の充実等)の解決策を見出す。	小学校のプール開き、学習発表会、中学校の文化祭に高校生を招き、水泳や楽器演奏を行ったり、中学生が高校参観をしたりして、交流を深めた。 小学校・中学校・高等学校の英語学習において、系統性のある指導をするために、教員が他校での英語学習を参観した。また、教員の交流だけでなく、生徒に対しては、高等学校教員が中学校で英語の学習をした。	C	・旧大栄地区と旧北条地区の地区クロスの交流も実施してほしい。 ・良い取り組みだと思う。 ・継続してほしい。 ・幅を広げて、町内外の交流を考えてはどうか。 ・北条地区 大栄地区の交流も考えてほしい。 ・小中＋高の取り組み ・北条地区の交流もあっていい。
○ドリームプロジェクトX (北条小・中)	北条小中連携 事業 テーマ 9年間を見通した、指導・学びの連続性のある小中連携 ～夢・希望に向かって、高め合う北条の子ども～	小中学校において、9年間を見通した指導・学びをするために、共通して実践することからを決め、取り組むことができた。 児童生徒が定期的に交流会を持つことで、小学生は中学生に対しての憧れを持ち、中学生は小学生から必要にされているという満足感などを実感できた。	D	・旧大栄地区と旧北条地区の地区クロスの交流も実施してほしい。 ・小・中連携ができて良いこと。 ・大栄・北条ともに、小学校から中学校へとストレートなため、連携ということは大切なことだと思う。交流することも大切である。しかし、実際は中学校から小学校気分が抜けきれず、成長が幼いという声も耳にする。子どもたちだけの交流だけでなく、教員同士の交流がもっと必要ではないか。 ・中学校と小学校の時とは違うという事も教えていく必要があると思う。 ・単一地区で小中の連携 ・特に生活面での連携が感じられない。

平成23年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)

継続・単年
対象者、参加者
参加者の満足度

予算措置

ビジョンへの貢献度

(評価)

A = 目標を大幅に達成できた
B = 目標をいくらか超えて達成できた
C = 目標どおり達成できた

D = 目標を一部達成できなかった
E = ほぼ全く達成できなかった

●外部委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
ー3 いじめ・不登校問題に対する学校の危機管理体制の充実				
○中学校での心の教室 相談事業の実施	・生徒たちが抱えている悩みやストレス等を軽減するため、心の教室相談員を北条中学校並びに大栄中学校に配置し、生徒が気軽に相談したり、安心して学校生活がおくれたりするような環境を提供するもの。 ・相談員は、概ね週3日、1日当たり4時間、中学校に勤務する。	【大栄中学校】相談員 川本 美保さん (週3回 午前勤務) 【北条中学校】相談員 小原 孝夫さん (週3回 午前勤務) ○成果 生徒のことで先生とのパイプ役となっている部分がある。また、地域の人であるため、保護者をよく知っている場合など、保護者との話ができる場合がある。	B	・定量的なデータを今後明記。 ・しっかりパイプ役になっていただきたい。 ・教育面で役立ててほしい。 ・子どもが相談していることをきいている。 ・相談をする窓口があることはいいこと。 ・子どもの行き先があり、継続してほしい。
○いじめ対策のための Q-U実施並びに教職員研修会	○小中教職員対象研修会 「いじめを生まない人間関係づくり ～QUを生かした人間関係の構築～」 6月30日(木) 15時30分～17時 講師 奈良教育大学准教授 粕谷貴志 於:大栄農村環境改善センター ○QU実施(小学校3～6年、中学校全学年) 各小学校・中学校 2回実施 「QU」・・・末尾に用語解説	小中教職員対象研修講演会「いじめを生まない人間関係づくり ～QUを生かした人間関係の構築～」 6月30日(木) 参加者数109人 QUを実施することで、子ども一人一人の理解と対応方法、学級集団の状態をつかむことができ、学級経営に役立てることができた。 研修会では、QUの結果をいかに役立てるかを学ぶことができたとともに、調査に頼り過ぎず、日頃の児童生徒の様子をよく見ることの大切さも学んだ。	C	・教員のための研修であり、とても良い研修会だったと思う。 ・研修会は行ってほしい。必要なこと ・学級経営については、担任の先生が大きく関わってくるのだが、担任の先生以外の級外、管理職との共通理解ができているかどうか疑問に思う部分がある。 実際の対応面でズレの部分があるのでは 本場に役立てることができたのか疑問 ・計画どおりに実行された。
○不登校対策の講演会	○小中保護者対象講演会 「不登校を未然に防ぐには」 講師 松嶋先生(中部支援センター)ほか 実施日 各小・中学校の参観日の際に実施	○小中保護者対象講演会 ・北条小 1月27日(金) 講師 加藤敏明(鳥取大学医学部准教授) ・大栄小 10月21日(金) 講師 松島絳子(中部子ども支援センター長) ・大栄中 10月21日(金) 講師 小林北斗(スクールカウンセラー) ・北条中 3学期実施予定 大栄中学校の講演会では、思春期の子どもの状況について分かりやすく話をされ、保護者として接する心構えを学ぶことができた。 大栄小学校の講演会では、これまで多くの不登校児童生徒に関わってきた講師の話を聞くことができた。	C	・保護者が10/60人、教員が6/20人の参加は少ないのではない。 ・せっかくの講演会なので、できれば年度当初のほうが良いのではないか。 ・教員が参加しにくかったのでは
○要保護児童対策地域協議会	○虐待を受けている児童をはじめとする要保護児童の早期発見や適切な対応を図るために、関係機関が当該児童に関する情報や支援についての考え方を共有し、適切な連携のもとで対応して機関として設置(主管課:町民課) 組織図・・・別紙のとおり	事業実施状況 【担当者会の開催】8月25日・12月9日 内容:該当児童・生徒に関する情報の交換・方針 ○成果 この会で、情報交換や今後の対応が協議でき、各課のすべき役割が再認識することが出来たので、児童・生徒の効果的な対応をすることができた。 ●課題 この会をより効果的なものにするためには、年間開催スケジュールを、年度当初にある程度決めておく必要がある。	B	・各課が連携して、対応してほしい。(回答)情報共有の場である。 ・不登校などの相談窓口として設置されていることはとてもいいこと。
4ー 学校教育の充実				
○少人数学級の推進	児童・生徒へのきめ細やかな指導を充実させ、基礎学力の定着を図るとともに、基本的な生活習慣の定着を図るため、教職員を次のとおり県基準と町基準に基づき配置した。 ○小学校 1・2年生→30人学級(県基準) 3～6年生→33人学級(町基準) ○中学校 1年生→33人学級(県基準) 2・3年生→35人学級(町基準) 町の定額負担による配置増 北条小学校 1年生70人(2～3学級) 1人増 2年生70人(2～3学級) 1人増 大栄小学校 1年生77人(2～3学級) 1人増 2年生69人(2～3学級) 1人増 北条中学校 1年生75人(2～3学級) 2人増 町の全額負担による配置増 北条小学校 4年生69人(2～3学級) 1人増 大栄小学校 5年生75人(2～3学級) 1人増 県費負担(研究指定方式～少人数指導法工夫加配教員を学級担任に振替) 北条小学校6年生69人(2～3学級) 1人増 大栄小学校6年生70人(2～3学級) 1人増	当初の基準どおり実施 ○小学校 1・2年生→30人学級(県基準) 3～6年生→33人学級(町基準) ○中学校 1年生→33人学級(県基準) 2・3年生→35人学級(町基準) 少人数学級編制により、家庭環境や学力面に課題のある児童生徒に対して、一人一人の基礎学力の定着や主体的な学習の取り組みの充実を図るために、学習指導面、生活指導面とも日常的な細やかな指導の積み上げができた。 特記事項 国が定める小学校1年の学級編成基準が、平成23年4月に40人から35人に改正	B	・町内他町と比較しても充実している。 ・少人数学級編成が望ましいと思うので、今後も実施していただきたい。 ・少人数学級の方が、教員の目も行き届きやすいので良いと思う。 ・少人数学級の編成で、教員の数も増えるという事は、人件費もかかってくるということ、保護者としては、教員の力量を高める取り組みに期待したい。

平成23年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)

継続・単年
対象者、参加者
参加者の満足度

予算措置

ビジョンへの貢献度

(評価)

A = 目標を大幅に達成できた
B = 目標をいくらか超えて達成できた
C = 目標どおり達成できた

D = 目標を一部達成できなかった
E = ほぼ全く達成できなかった

●外部委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
○ICT教育活動支援員の配置	○ICTとは Information and Communication Technology の略 (情報通信技術) ・児童・生徒のパソコン・インターネット・電子黒板などを利用した教育のため、担任を補佐するために配置 ・全小中学校に1名ずつ配置	○効果 児童、生徒に対する効果 ・各教科でインターネットで調べる活動がた(さん入ってきて、パソコン室における学習)においての補佐により、児童が短時間で必要な学習を身に付けることができた。 ・授業でのICT機器の活用が進み、視覚による理解の必要な児童が学習に対して意欲的になり、学級全体が集中して学習できるようになった。 ・児童の活動が、写真や表で掲示されることにより、児童が活動の喜びを感じると共に、次への強い意欲喚起となった。 ・総合的な学習のまとめの作成段階において、支援員による的確なアドバイスで、児童は満足いく作品を作り上げていた。 教師に対する効果 ・ICT機器を活用するための資料作成に協力し、児童にとって効果的な資料、教材が多数作成できた。 ・パソコン室での学習準備、教材作成の補助により、担任は時間を有効に使って児童の指導にあたることができた。 その他の効果 ・学校ホームページの更新にも協力し、閲覧回数が今年度急激に増加した。 ・学校評価等のアンケート集計、グラフ化などを受け持つことにより、校務の効率化と情報発信に大きな効果があった。 ●課題 ・課題というよりは期待として、児童用パソコンの更新により、補佐員の支援によって、児童のパソコン室での学習がより大きな効果を挙げるだろう。 ・補佐員をさらに効果的に活用するための授業展開の工夫	B	・専門職の方でない指導はなかなかでしょうから、先生方にも研修を重ねていただきたい。 ・専門的で特化されているものであり良い制度
4ー 基礎基本の定着				
○サマースクール (夏休み中の勉強会)	1 わらい ・夏休みにおいて学習習慣を継続させるとともに、講師のアドバイスや指導を受けることで学習内容や学習方を学び、意欲を持って学習にのぞめるようにする。 ・地域のひととふれあうことで、地域の一人としての自覚を深めるとともに、地域の人が講師として指導される様子から、自らの生き方についても考える機会とする。 2. 対象・期日 ・小学校児童40名、夏休み中の10日間 詳細は別紙参照	実施状況 人数は延べ人数 【北条地区】7/25～8/19 の内10日間 北条改善センター 参加児童 153人 指導者 18人 【大栄地区】7/26～8/19 の内10日間 町立図書館会議室 参加児童 181人 指導者 43人 ○成果 参加児童が、各自で学習の準備をし、静かに学習を進めることができた。 教員経験者を講師に依頼し、児童の質問に丁寧に答えていた。 ●課題 1回の時間が2時間であったが、後半、児童の集中力が続かなかったので、時間を少なめにした方がよかった。	C	・教員経験者以外に保護者のボランティアも募ってはどうか。 ・児童の希望者が潜在的に施設制限より多ければ、複数個所の開催も必要。 ・保護者にとっては、とてもありがたい勉強会。今後も、改善するところは改善してもらい、継続していただきたい。 ・「サマースクール(教科学習)」と「学び力アップ講座(学習1時間+体験活動)」の関係? →子どもは好んで取り組む、すり合わせて実施してはどうか。(回答)大きな違いは教科学習が体験活動かということ。教科学習には指導者がいる。 ・保護者の中から指導者を募集してはどうか? ・いい取り組み ・機会をより多く提供できるようにできるのでは
○学力向上講演会の開催 (教職員)	○光アドバイザー招聘事業 (学識経験者を呼んでの授業研究→講師の選定と依頼は、各学校で行なう) ・大栄小 3回 ・北条中 2回 ・大栄中 2回 (北条小は「人権教育指定校」事業(国)を実施する予定)	従来から行っている校内授業研究会に、外部から学識経験者に来てもらい、各学校の研究推進や当日の公開授業についてアドバイスをもらい、それをもとに、授業力の向上を目指して取り組むことができた。	C	・教員の参加状況はどうなっているのか。(回答)校内研究会であるので、ほぼ全員が参加している。 ・教師の資質の向上を願い、より良い授業、分かる授業により子どもたちの学力向上を目指していただきたい。
5ー 生涯学習の推進				
○社会教育講演会の開催 (宝くじ文化講演)	全町民を対象とした講演会を開催。 講師:草野 仁 日時:平成23年10月22日(土) 午前10時～ 場所:北栄町大栄農村環境改善センター	○成果 来場者数338名(83.7%)、チケット売り捌き枚数500枚 目標であった80%を超える来場があり、特に高齢の方の来場が多く見られた。ユーモアを交えた講演に観客から笑いが起こる場面も多く、参加者が講演を楽しんでいる様子が見られた。 ●課題 事前の周知に關し、新聞等の報道機関の利用も含めより幅広く広報活動を行うべきだった。また、整理券配布が無料のため「とりあえずもらっておく」という人が多いことが考えられる。売り切れ後の問い合わせもあり、本当に欲しがっている人へ行き渡るようにする方法を今後考えてい必要がある。	D	・配布したチケットの確実な参加を促してほしい。 ・聞きたい人が聞けなかったのはとても残念なこと。受け取った以上は責任持って参加してほしい。 ・有名人は人が集まる。80%の来場があったことは評価できる。 ・聞きたい人が聞けないことは課題
○生涯学習出前講座提供事業	地域住民を対象として「出前講座メニュー」を発信する。地域や団体が主体的に学習出来る体制をつくることで、学習への意欲の向上を図る。	今年度初めての事業だったため、予算確定後の5月の自治会長会以降町報・HP等で定期的に周知しているが、申し込み団体数が少ない。5月の自治会長会では、地域の行事(事業)は年末・年始のうちにしたい決めてしまうのでこの時期に出されても自治会では計画しにくいとの意見もあったので、来年度分は11月自治会長会でも周知したい。12月末現在の実施件数は4件(ニュースポーツ、税、福祉、保健)だが、実施団体からは「よかった。今後も実施を検討したい。」といった前向きな意見が多く聞かれた。	D	・自治会長さんに周知してもらい、もっと活用してほしい。→声かけがなかったのでは地域に浸透していないのでは? ニーズはある。もっと活用してほしい。 ・講座54に対して実施4件は少ない。(回答)1月に2件実施、メニューにないものも対応可能 ・内容がニーズに合っているのか(回答)まんべんなく対応、ニーズ調整していない 希望に合わせることをしている ・参加周知の方法は工夫が必要 ・住民視点でのニーズ ・参加周知方法の改善

平成23年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)

継続・単年

対象者、参加者

参加者の満足度

予算措置

ビジョンへの貢献度

(評価)

A = 目標を大幅に達成できた

B = 目標をいくらか超えて達成できた

C = 目標どおり達成できた

D = 目標を一部達成できなかった

E = ほぼ全く達成できなかった

●外部委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
○歴史文化探訪ウォークの実施	【目的】北栄町内の歴史、文化財、文化芸術を自らの足で歩き、知ってもらう事により、郷土愛の醸成を図る。 【期 日】平成23年10月9日(日)午前9時から 【内 容】北条砂丘開拓をめぐるコース(約3k) 【募集定員】25名 3年目通算5回目	【成果】 北栄町内の歴史・文化を歩き訪ね、知ることで郷土愛の醸成を図る目的で、今回大栄地区の瀬戸集落地内を巡った。県指定保護文化財や、古墳跡等を解説を行いながら約3.5kウォーキングを行った。参加者の感想としては、近くにいながら歴史や存在を初めて知ったなどがあり、ふるさとの認識に役立った。(参加者数23名) 【課題】 今回で5回目となるが、参加者の年齢が高齢者が多く歩行距離と、コース設定に工夫が必要。	C	[2 - 町の自然や歴史に触れ合えるイベントの開催]の事業欄に記載済
○ディスカバー北栄2011 (ボランティアで守る 町内文化遺産)	【目的】町内には35箇所の指定文化財があるが、それらを知る人は少ない。ボランティアによる文化財保護(清掃等)を行い、存在、意義を知ってもらう。また特徴的な取り組みで情報発信を行い文化振興を図る。 【期 日】平成23年11月6日(日)午前9時から2時間程 【場 所】国史跡 由良台場 【作業内容】台場の清掃、草刈り、解説 【募集定員】特に定めない	指定文化財の存在を周知する事と、郷土愛を醸成するために清掃等をボランティアで取り組むが、特に観光シーズンを前に取り組む事とし、豊田家庭園を対象に行う。開催時期は草枯れている春休み期間中に開催予定。(地元ボランティアとの協働も協議中)	E	(回答)職員が減ったこともあり未実施、H24実施する予定
○町民音楽祭の開催	【目的】北栄町独自の音楽文化発信の場として、音楽祭を開催。(愛好者が多いコースに特化) 【期 日】平成23年10月23日(日)午後 【場 所】大栄農村環境改善センターホール 【内 容】町内で活動するコーラスグループ等8団体を予定・実行委員会方式で開催。	【成果】 北栄町の音楽文化の裾野の拡大、技術行動、交流を目的に開催した。町内5団体の愛好団体が参加し28曲を合唱。入館者のアンケート回収60人中、50人がとても満足、満足と回答している。初めての試みであったが、出演者、入館者共に好感触をもった事業。 【課題】 アンケートの要望に小学生や中学生の出場を希望する声が多かった。現在北条小学校のみだが、大栄小学校にも形が出来かけている。次回に向け学校等へ呼びかけが必要。	C	・アンケートを取られた以上は、要望に応じていただきたい。
○「読み語るふるさとの偉人達」事業	【目的】町内には、前田寛治や豊田太蔵、日置黙仙など本町発展の礎となった偉人がある。それらの伝記、記録を読み聞かせにより周知し、郷土に誇りを持ってもらう。 【期 日】平成23年9月17日(土)午前10時から予定 【場 所】北条歴史民俗資料館 【定 員】定めない(近隣グループホームなどにも声かけ)	現在町内の読み聞かせボランティア「つくしんぼ」と協議中だが、読み聞かせ用の台本を制作する必要があり、今年度は台本制作を行い、翌年度出前的に読み聞かせを行う事とする。	D	・類似事業の集約化の検討も必要。 (回答)当初ある物とする予定であったが、「つくしんぼ」が読み聞かせを実施する上で必要な物の作成が必要であるといふことから、現在は台本を作成している。樹田新蔵、豊田太蔵完成予定。H24年には実施可能(今後は増やすのか(回答)当面は2名分)
○社会教育関係団体活動費補助事業	自主的に行う社会教育活動や学習、または地域社会に貢献するための諸活動を行う社会教育団体の活動費及び指導謝礼等の一部を補助する。 婦人会:130,000円 PTA:20,000円×4校(小学校2校、中学校2校)	PTAは補助金を活用し保護者を対象とした研修会を開催。「親育ち、子育て」に関すること、「人権」に関すること等を学習。「これから子育てをしていく上での大きなヒントを得た」「自らの生活や子どもとの関わりを見直すきっかけとなった」等の感想があり、保護者にとって日頃の生活を振り返るよい機会となっている。 婦人也会費・補助金を活用し各種研修会に意欲的に参加している。また、町行事への積極的に参加・協力を得ている。	C	・会員数65名の婦人会への130,000円の算出根拠は何か。適切なのか。 (回答)合併時のすり合わせで決定。算出根拠はない。会員人数は減ってきている。 ・町に明文化はあるのか?(回答)ない
5ー 人権同和教育の推進				
○人権の花運動の実施	花を育てることを通して、命の尊さを学び、豊かな心、思いやりの心を養う。 5月17日(火)、北条小学校、大栄小学校にて「人権の花」の苗を贈呈した。(広報北栄6月号参照のこと)	【成果】 今年も大栄、北条小学校に700株贈呈。「環境委員、栽培委員だけでなくみんなで苗植えや水やりをやれた。」「玄関前がきれいになった。」という感想が聞かれた。 自覚を持って世話をする姿が見えた。 【課題】 花を育てる以外にも育てた花で写生会等をしてやさしい思いやりのある心を育てていくようにしてい。	C	・育成された苗より、児童が一人から種を育てることで生命の大切さが分かると思う。(前年度も指摘) ・とても良い活動だと思う。
○人権同和教育 小地域懇談会の開催	町内全63自治会で自主的、主体的な学習活動として小地域懇談会を実施することにより「身の回り」にある人権課題」に気づくようみんなで人権感覚を高めていく。(9月から11月)	【成果】 今年も町内全63自治会の自主的な取り組みとして主体的な運営で実施していただいている。全自治会(63)で実施。(参加者数1,037人、自治会平均16.5人、昨年度最終自治会平均人数19.1人) 【課題】 各自治会で懇談会を実施する方法になって今年で3年目。参加者が全体的に減ってきている。(H21年1,469人、H22年1,202人)	D	・参加者が年々減少しているため内容・実施の仕方の工夫が必要。 ・自治会によって温度差がある。 ・意識が低下してきている。同じ人が参加している。同じことをしている = 意識を高めてほしい

平成23年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)

継続・単年
対象者、参加者
参加者の満足度

予算措置

ビジョンへの貢献度

(評価)

A = 目標を大幅に達成できた
B = 目標をいくらか超えて達成できた
C = 目標どおり達成できた

D = 目標を一部達成できなかった
E = ほぼ全く達成できなかった

●外部委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
○小中学生の地区学習会の開催	大野児童館、北条文化会館、大栄文化センターにおいて、人権学習・教科学習・仲間づくりに取り組むことで部落差別をはねのけ、差別に立ち向かう力を養うため、同和地区の小・中学生を対象に各小・中学校で年34回程度を実施する。	(成果) 週1回、差別に負けない力をつけるため人権学習、仲間づくりを行い、進路を切り開く基礎学力を高める教科学習を実施している。只今、12月10日～11日に行われる部落解放文化祭の学習発表のため各学年ごとテーマを決めて部落問題をはじめ幅広い人権問題について学習中。	B	・いつごろからか 昭和の時代 ・何人くらいの対象 小27人、中11人すべてに参加する予定 ・学習よっての仲間づくりができてい ・意識の変化はあるが、地区学習の必要性はある ・子どもたちの意識も変わってきている
5ー 人権尊重まちづくりの推進				
○人権教育講演会の開催	より多くの町民に呼びかけ人権課題に対する理解を深めるため講演会を開催する。 ・日時 7月21日(木)19時から受付 ・場所 大栄農村環境改善センター ・演題 「輝いて生きるために」 ・講師 江嶋修作さん(解放社会学研究所長)	(成果) 参加者数301人。アンケート回収者のうち174人中、「人権問題に関心や理解が深まった。」が174人中132人(75.9%)だった。その他、「人権感覚を養うためにも、人権に関する情報に関心を寄せ、学習していくことの必要性を感じた。」という感想もあった。 (課題) 町民一般の方を対象にした講演会なので、会場客席(400)の参加者をめざす。	C	・定員400名の会場を設定するなら、参加者数の増加が必要。(4分の3)例年300人程度 ・集客方法について、広報活動を重点的に検討。
○人権同和教育事業所研修の実施	事業所経営者や従業員の方で人権教育講演会や懇談会等になかなか参加しにくい方へ少しでも人権問題に関心を持っていただくため事業所へ依頼し、こちらから出向き研修会を実施する。	(成果) 12月末時点で、9社に実施いただいた。参加者合計421人。	C	・1/12時点で421人。 ・参加者が多かった。= 自治会の実施方法も検討が必要では
5ー 関係諸機関、団体との連携及び指導者の育成				
○人権同和教育推進指導員、地区推進員等の研修	人権同和教育小地域懇談会のスムーズな運営と助言等を行うため、年3回程度の会合を開き、学習内容を協議検討を行う。	(成果) 小地域懇談会を実施する前に指導員会議を2回実施。地区推進会議も2回実施した。 (課題) 指導員の減少。自治会長及び地区推進員の資質の向上が必要。	C	
6ー 地域住民の健康増進				
○歴史文化探訪ウォークの実施	{目 的} 北栄町内の歴史、文化財、文化芸術を自らの足で歩き、知ってもらう事により、郷土愛の醸成を図る。 {期 日} 平成23年10月9日(日)午前9時から {内 容} 北条砂丘開拓をめぐる コース(約3k) {募集定員} 25名 3年目通算5回目	{成果} 北栄町内の歴史・文化を歩き訪ね、知るにより郷土愛の醸成を図る目的で、今回大栄地区の瀬戸集落地内を巡った。県指定保護文化財や、古墳跡等を解説を行いながら約3.5kウォークを行った。参加者の感想としては、近くにいながら歴史や存在を初めて知ったなどがあり、ふるさとの認識に役立った。(参加者数23名) {課題} 今回で5回目となるが、参加者の年齢が高齢者が多く歩行距離と、コース設定に工夫が必要。	C	[2 - 町の自然や歴史に触れ合えるイベントの開催]の事業蘭に記載済
○ウォーキングのまち北栄町推進事業	{目 的} 昨年作成した北栄てくてくウォーキングマップを活用し、気軽に取り組めるウォーキングで、運動人口の裾野の拡大を図る。 {期 日} 平成23年4月～12月の間で6回開催 {時 間} 午前9時から始め午前中に終了 {内 容} マップ11コースの中から今年度は6コースを歩く {募集定員} 定員なし 参加者には毎回参加缶バッジ有	昨年作成したウォーキングマップを活用し、ウォーキングによる運動人口の裾野の拡大を図るべく実施。12月末で6回開催し、延べ280名が参加。参加者は、町内外からの参加がある。町のウォーキング大会として定着しつつある感がある。(本事業は県のウォーキング事業の19のまちを歩こう公認コースに認定されている)	C	[2 - 町の自然や歴史に触れ合えるイベントの開催]の事業蘭に記載済

平成23年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)

継続・単年
対象者、参加者
参加者の満足度

予算措置

ビジョンへの貢献度

(評価)

A = 目標を大幅に達成できた
B = 目標をいくらか超えて達成できた
C = 目標どおり達成できた

D = 目標を一部達成できなかった
E = ほぼ全く達成できなかった

●外部委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
○訪問型ニューススポーツ体験事業 (おじゃまします！ 体育指導員です)	[目的] 従来の「来場型」のスポーツ、運動に参加しにくい人を対象に「訪問型」のスポーツ、運動指導を行い生涯スポーツ人口の裾野を広げる。 [期 日] 要請があれば調整の上随時 [内 容] 自治公民館、広場等で出来る簡易なニューススポーツを主にメニュー提示をし、募集する。 [対 象] 自治会老人クラブ、いきいきサロン、子ども会、親子内など	[成果] 本事業に取り組むことにより、今までの小学校親子会に加え、新たに「いきいきサロン」の皆さんに、スポーツ推進委員(旧体育指導委員)指導によるニューススポーツ体験を利用していただき、生涯スポーツ人口の層を少しでも広げることができた。ニューススポーツをメニュー化して、町広報に掲載し、事業を町民の方に知っていただくことにより、ニューススポーツ体験のきっかけづくりを推進した。 スポーツ推進委員指導によるニューススポーツ体験・体操 指導10件(12月末現在) [課題] 利用者の大部分は、小学校親子会であり、今後、よりいっそう利用者層を広げていくためにも、本事業について、複数回にわたり町広報に掲載する等して、町民の方に本事業を周知していく必要がある。	C	・新規事業でニューススポーツは、年齢に応じたスポーツということで、必要とされる広い年齢層に参加を促してほしい。 ・良い取り組みだと思う。もっと広げていってほしい。 ・色々な場面で、参加・活動できるよう、もう少し宣伝していってほしい。
6ー 公民館活動の推進				
○生涯学習推進講演会の開催	幅広い知識と経験を持つ講師を招いて講演会を開催し、夢に向かって努力し、目標を達成していく姿勢や、人と人とのきずなの大切さを学ぶことによって、生涯学習推進のきっかけとする。 平成23年8月27日(土) 午後7時30分 大栄農村環境改善センター 「チャレンジ、世界へ、宇宙へ、未来へ」 NASA/JAXA宇宙飛行士候補生ファイナリスト 医学博士 江澤佐知子さん 	8/27開催、参加者56人 仕事を持っている世代の方でも来やすいよう夜間の開催としたが、その世代への周知が十分でなかった。 また、新聞等、報道関係をもっと上手に活用したい。	E	・講演内容と告知の両方に工夫が必要。 ・講演内容を事前に把握し、対象者を明確にし、せっかくの講演をもっと多数の人に聞いてもらえるように周知してもらいたい。 ・何を目的としているのか、目指しているのか、よく見えてこない。集客の方法を考えるべき。 ・内容も含め、対象者も考えた方がよい。
○公民館講座の充実 (シニアクラブ・男性講座・女性講座・ピラティス講座・自治会生涯学習部長研修)	●シニアクラブ 高齢者の学習活動と社会参加を促し健康と活力と生きがいをもたせることを目的として、総合学習とコース別学習(パソコン、ニューススポーツ、歌唱、習字、ゆるゆるヨーガ、絵てがみ、フラダンス)を毎月行う。 ●自治会生涯学習部長研修 生涯学習部長を対象として、地域活動の中で自治会の果たす役割について研修を行い、自治会の公民館活動を支援するために中央公民館が情報提供や相談の機能を発揮する機会とする。 ●女性講座 心身の変化が多い時期である30歳前後から60歳までの女性を対象として、元気で美しく年齢を重ね、生き生きと暮らすための一助とし、仲間づくりと地域活動への参加意識を高める。 ●男性講座 公民館との繋がりが少ない男性、特に50歳代より若い男性向けの講座を実施し、リーダーを育成、公民館の活用方法を広げる。 事業内容に実践的な講座を計画し、地域活動参加へのきっかけ、意識を高める。	●シニアクラブ 12月末の各学習会員は、総合59人、コース別136人、各学習参加率は総合4割、コース別7割。会員は随時募集している。参加する会員の学習意欲は高く、積極的に各学習に取組んでいる。会員が高齢で体調・天候等の要因で参加率の向上は難しいが、社会参加の場になるよう呼びかけを行う。 ●自治会生涯学習部長研修 自治会長をはじめと自治会役員の参加を呼び掛け、地域ぐるみの取り組みとなるよう働きかける必要がある。生涯学習出前講座の周知を合わせて行い、事業効果を高めたい。 ●女性講座 リーダー養成とサークル化を目標として実施するためには、安定した参加者の確保が課題。 ●男性講座 12月末の会員数は11人。6月～12月の間に6回事業を実施し平均参加人数は6人。会員は随時募集している。今年度は公民館の利用目的、活用方法を知っていただくため短時間で成果の得る実践的な講座を実施しているが、参加者の興味により参加状況が大きく変動する。会員増加のため広報活動の見直しと、今後は事業目的に沿ったリーダー育成等を取り入れた事業内容を行う。	C	・女性講座に男性が、逆に男性講座に女性も参加することで、相互理解が深まるのではないかと、参加者が少ない。(回答)募集定員が少ないものもある。参加されている方だと感じている。講座によって人数を変更している。
○なつかし写真の資料収集	地域の行事、風水害、人物、建物等の古い写真を収集し、時代背景や内容を整理し、収集した写真は町の今昔を語る資料として保存する。	現在、町が保管する過去の広報写真等から資料収集を行っている。 21年度に町民から資料、情報提供をいただいたが、今後改めて呼びかけを行う予定。	C	・収集した写真の利活用が不明確。 ・種別まんべんなくか？(回答)行事・風水害が多い ・21～23(最終)収集行事で何枚集まったのか(回答)201枚収集・公民館ロビー展示・歴史で企画展を行う予定→今後も継続して収集 ・常設も考えているか？(回答)企画展としたい
○北栄文芸の編集発行	<文芸誌を 4、7、10、1月の年4回発行> 幅広い年齢層において文芸に親しみ、文芸の芽を醸成する場として文芸作品を投稿していただき、文芸誌を刊行する。	4月に22号、7月に23号、10月に24号を発刊し、1月に第25号発行予定。 毎回、一定の作品投稿はあるが、投稿者がほぼ固定されているため、新規投稿者の作品募集が必要。	C	・前年度と同じ問題点がある。内容・選者の工夫が必要ではないか。 ・おもしろくないとの声有り。 ・新規の人をどうするのか？ ・小・中・高でも利用しては ・継続して発行されている ・小・中学生にも募集しているが、参加者は固定されている

平成23年度 北栄町教育委員会の事務に関する各委員による点検評価表

(評価の観点)
継続・単年
対象者、参加者
参加者の満足度

予算措置
ビジョンへの貢献度

(評価)
A = 目標を大幅に達成できた
B = 目標をいくらか超えて達成できた
C = 目標どおり達成できた

D = 目標を一部達成できなかった
E = ほぼ全く達成できなかった

●外部委員による事業評価

事業名	実施概要	成果と課題	総合評価	各委員の意見等
○由良川イカダレース大会の開催	8月7日(日) 由良川を手づくりイカダで下り、楽しむことにより出場者と観覧者の一体感を生み、仲間と自然の大切さ、地域住民のふれあいと連帯感を高める。 小学生・中学生、自治会・一般職域の4部門でイカダのアイデアとタイムを競う。 実行委員会を中心に実施する。	8/7開催、出場28チーム、参加者260人。 出場チーム数は前大会と比較し減少した。 今大会は観覧者増加のための方策として順位予想の応募イベントも行った。 大会を活用し地域に活気がでるよう、参加募集及びイベントの周知方法、大会企画の見直しを検討する。	C	・毎年微減しているのに、企画の根本的なテコ入れが必要。 ・にぎやかなイベントとしては定着していて、楽しみにされている方も多い。 ・イカダの経費が多くなる。子どもの減少(回答)大会の内容変更を検討している (説明)事業仕分け(5:1)改善して継続。由良川改修の推進、河川保全
○美術展の開催	11月3日(木)～15日(火)予定 町民等を対象に9部門において作品を募集し、約2週間の会期で作品を展示する。	審査員、招待作家、無鑑査作家、一般公募による出展作品数102点。 全体的に漸減傾向にあるが、新規出展が15点あった。 引き続き関係各方面に広く呼びかけるとともに、潜在する作家の情報収集に努めて出展の呼びかけを行うことにより、文化、芸術活動の裾野を広げて、出展者数の増加を図る必要がある。	C	・参加可能分野を広げるなどの「敷居」の下がる工夫が必要。
○公民館まつりの開催	<作品展> 1月28日(土)～2月5日(日)予定 <芸能発表> 2月5日(日)予定 公民館活動の発表と鑑賞を通して、町民が集い交流を親睦を深め、よりよい地域づくりと生涯学習を進める。	11月7日の第1回実行委員会で要項等決定し、出展作品・出演者募集中。	C	・年配の方は、公民館まつりを楽しみにしている方が多いと思う。 ・若い人たちは、公民館まつりの存在さえ知らない人も多い。 ・(説明)作品 261名 298点 63人(新規) 減少傾向にはある 芸能 284名 730人(参加者)
○文化教室等の成果還元活動推進	文化教室活動の素晴らしさと、学んだ成果を地域に還元し、地域住民が芸術文化に親しむ機会をつくるため、各教室が講座及び展示・発表等の方法により活動を実施するための費用の助成を行う。	11月9日現在、10団体22事業、計66,000円助成を行った。各団体の自主企画で、福祉施設、高齢者施設、町内企業等で展示及び舞台発表を行い、自分たちの活動成果を地域還元している。 各団体の活動機運は向上しているが、活動を行う団体が限られているため助成金の縮小、廃止に向けて検討を行う必要がある。	C	・助成の金額が妥当かどうか検討してほしい。 ・地域間の工夫が必要である。 ・各地区類似団体の統一化は？(回答)できていない。補助ある、なしがある。 まんべんなく補助したい。 ・(説明)北条地区で行われていたもの。大栄地区では認識が低い。1団体 1成果 3回まで補助 内容の見直ししている(例)ロビー展示3回→1回
○文化団体連絡協議会の活動支援	文化団体連絡協議会員の交流、また、地域文化の振興を図るため、協議会が実施する様々な文化芸術活動に対する事業に対し費用の助成を行う。 会員1人100円～300円	年間を通じて中央公民館、中央公民館大栄分館のロビーでの作品展、9月18～25日に自主運営による第2回文化芸術合同発表会、11月に視察研修等を実施している。 協議会会員の親睦、自己研鑽活動を進めながら、町内の文化芸術の裾野を広げる一助を担っている。	C	・展示・発表は文化団体の地元の還元なので必要だが、内容によっては研修・親睦への助成は不要ではないか。 ・発表の場になって、とても良いと思う。 (説明)文化団体連絡協議会390人、36団体、30万円補助(年1回研修・ロビー展示・舞台発表・作品展示) H24各団体ごとに取り組んでもらう。
○指定管理者まちづくりネットによる大栄分館の管理及び各種事業の実施	指定管理委託料 1,143万5千円 大栄分館の管理運営業務のほか、子どもほくえい塾、中高生サークル夢雲、女性相談事業、各種講座、講演会等の事業実施。	民の力で地域住民のニーズに応えた事業を企画、推進していただいている。 また、毎月最終火曜日開催の生涯学習課関係合同会議に中央公民館と大栄分館も出席し、連携を図っている。	B	・活性化している 子ども・保護者の出入りも増加。公民館本館の利用が行政的となっている一方、地域的な細かい活動を行っている。 ・委託料がどうなのかわからないが、しっかりサポートしていただきたい。 ・本館はどうか？(回答)行政の立場(持ち場)で、事業を実施している。 ・事業が考えられ、取り組んでいる。 ・北条から子どもも来て、利用されている。 ・ボランティアでなりたっているようで、金額を上げてもいいのではないかな。

用語	解説
「Q-U」	「Q-U」は2つの心理検査から構成されています。「いこちのよいクラスにするためのアンケート(学級満足尺度)」・「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート(学校生活欲尺度)」この2つの心理検査から教師は子どもたち1人ひとりについての理解と対応方法、学級集団の状況と今後の学級経営の方針をつかむことができます。 「Q-U」は標準化された心理検査「Q-U」は発行前に総計3万人の児童・生徒を対象に事前検証を行っており、その結果日本テストスタンダード委員会の審査基準を満たした標準化された心理検査として認定を受けています。標準化されているとは、心理検査の内容が妥当であり、また、実施のたびに結果が大きくぶれない信頼性があることが、事前に検証されているということです。検査結果を判定する基準が統計的に明らかにされ、信頼性と妥当性が保証されているため、公的な資料としても活用することができます。